

議会からのお知らせ

■大豊町連合婦人会と意見交換会を開催

8月4日（火）大豊町議会基本条例第4条に基づき、大豊町連合婦人会と意見交換会を開催した。杉本麗子会長から、本町婦人会が連携を図り、婦人の教養を高め、社会発展に寄与することを目的に様々な活動を行っているとの挨拶の後、意見交換を行った。

婦人会からの意見

- | | |
|--|---------------------------|
| 1 婦人会活動を展開していく中で、会員の減少が大きな課題であり、まずは各議員さんの奥さんから積極的に加入を望む。 | 4 独身者の婚活のサポート。 |
| 2 社会教育（公民館活動等）の充実。 | 5 旧小学校の利活用。 |
| 3 町内の名所へ観光客の誘致。 | 6 森や山との関わり。 |
| | 7 避難場所や自主防災活動、などの意見が出された。 |

少ない時間ではあったが、議会として、婦人会の意見を参考に今後の議会活動に生かしていきたいと述べ閉会した。

意見交換前の昼食は、婦人会によるカレーライス、野菜等の料理をいただき、議員一同大変感謝をいたしております。婦人会の皆様誠にありがとうございました。



大豊町連合婦人会との意見交換

■全国森林環境税創設促進議員連盟第22回定期総会開催



7月16日新潟県村上市で、第22回定期総会が開催された。この議員連盟は平成6年に設立し、現在全国333市町村が加盟している。

森林は地球温暖化の防止や国土の保全、水源のかん養などの公益的機能を持っている。こうした機能は、山村地域の市町村による森林の整備・保全によって維持する必要があるが、危機的な市町村財源の状況から、恒久的・安

定的な財源が大幅に不足している。

このため、市町村の新たな税財源として「全国森林環境税」の創設を悲願として活動が続けている。

※全国森林環境税創設促進議員連盟の担当議員が今井安博議員から都築正光議員に交替いたしました。

■四国土砂防災ネットワーク議員連盟第15回定期総会開催

8月7日香川県三木町で、第15回定期総会が開催された。この議員連盟は平成13年に設立し、現在44市町村が加盟している。

国土保全は国の重要な責務であるとの認識のもと、国が直轄事業に限らず、あらゆる防災事業を積極的に展開し、責任を持って土砂災害の多発地帯である四国各地域の生命・財産を土砂災害から守り、地域発展の確固たる礎を築くため、国会及び政府に対しての要望活動や国土保全に関する調査などの活動が続けている。



編集後記

平成27年9月議会は、9月10日から18日までの9日間の日程で行われました。梅雨が明けると同時に、暑い日々が続くと思われ、8月後半は、例年になく寒い日が続きました。9月に入ると台風18号の影響により関東・東北豪雨が発生、鬼怒川堤防決壊等100年に一度という甚大な災害がありました。被害に遭われた方々に心よりお見舞い申し上げます。

8月20日市町村議会議員広報編集の研修会が高知城ホールで開催され、大豊町からも広報編集委員会委員5名が参加いたしました。より解りやすく見やすい編集に努めて参りますので、議会だより「秀峰」を今後ともよろしくお願いいたします。

広報編集特別委員会 藤丸 高德



【ご意見やご感想は】
大豊町議会事務局
電話 72-0450 まで

委員会の動き

○総務産業建設常任委員会

ストックヤード建設予定地とチップ工場視察

総務産業建設常任委員長 三谷幸一郎

現在大豊町森林組合では町内の豊富な森林資源を利用することで山林を再生し、林産業を活性化させるべく、伐採した原木をストックする（貯めて置く）森林資源集積基地（ストックヤード）面積約4万1千平方メートルを大豊町津家地区において造成事業を実施している。このストックヤードは現在川口南地区にある2箇所では手狭となり処理が困難となったため、より広いストックヤードを建設し1箇所木材市場として稼働する計画である。今年度から工事に取り掛かり、平成30年度には竣工予定である。「高知おおとよ製材」も操業3年目に入り現在では年間8万立方メートルの原木消費が見込まれる、このストックヤード建設により「高知おおとよ製材」にもメリットとなると予測される。また、「旧21世紀センター」跡地に今年度から操業を始めた「丸和林業(株)大豊事業所」は「1本の木も無駄にすることなく加工する」との意気込みで原料用又燃料用の木材チップの生産、販売を行っている、個人でもトラックで間伐材や雑木等のような材でも持ち込み可能とのこと、ストックヤード整備や丸和林業の操業により大豊町の林産業が軌道に乗り、第7次大豊町総合計画が達成できることを切望する。



津家ストックヤード現地

○教育民生常任委員会

おおとよ小学校・大豊町中学校の授業参観

教育民生常任委員長 藤丸 高德

平成26年4月大豊小学校、大田口小学校、大杉小学校を統合し開校した、おおとよ小学校は、開校2年目であり現在69名の児童と16名の教職員等が配属され、大豊を心に刻む教育を通じ「かしこく、やさしく、たくましく」を学校教育目標として掲げている。3年生、4年生の授業参観では、基礎学力の定着向上を基に熱心な授業に取り組んでいた。また、水泳教室では、元気な子どもたちを見ることが出来たが、プールは老朽化が著しく、加えて、遠距離でもあり、時間を費やしている状況で校舎を含め抜本的な見直しが必要である。

中学校においては、大豊中学校、大杉中学校2校を統合し7周年目を迎えており生徒数は各学年14名の42名、教職員等19名である。学校経営基本方針は、中学校段階の基礎・基本的な事項を確実に定着させる取り組み、また、文部科学省委託事業の「英語教育強化地域拠点事業」の実施や国際バカロレア（国際的な人材育成の教育プログラム）の目指す人材育成にチャレンジし、15年間で地域の子どもの育てる保小中一環教育を推進し、グローバルな視野を持つ生徒を育成している。授業参観では、実社会の関連を重視した社会科の授業、英語の教諭、オーストラリアからALT（外国語指導助手）、CIR（国際交流員）に加えて英語の支援員1名による大豊ならではの特色ある英語の授業、確実に身につけておきたい数学の授業、それぞれ熱心に取り組んでいる。今後においても小中一環教育のさらなる充実と、大豊を心に刻む教育の達成、将来「大豊を忘れない子どもたち」の教育を望む。



大豊町中学校教室